

農林大学校GAP(農業生産工程管理)教育の取組み

「GAP (Good Agricultural Practice)」とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全の持続性を確保するための生産工程管理の取組をいいます。事故を起こさず、安全に農場運営を行い、法を遵守して農業をするためにはGAPに取組むことが近道です。事前にチェック項目を整えることにより農業経営のルールができあがり、より良く改善することで誰でもわかり易く農業に取組めるようになります。また、2020年開催の東京オリンピック、パリオリンピックにおいてもGAPの認証取得が食材調達基準となつていきます。

GAP導入の生産者側のメリットとして①食の安全、環境保全、労働安全等により適切で、持続可能な農場運営が実現する。②第三者機関の認証を受けることで「信頼できる農場・選ばれる生産者」となる。③事故の未然防止及び発生時の迅速な原因究明が可能となる。④ブランド力が向上する。⑤販売先との持続的な取引や新しい販路(輸出等)の開拓に役立つ等が挙げられます。以上のように、GAPの実施は生産管理の効率化や経営意識の向上にもつながると

いった効果があります。それでは、本校でのGAPの取組概要を紹介します。校長を代表者、副校長をGAPリーダー、学科担当教員及び総務課職員を農場商品管理、肥料・農薬管理、労働安全等の責任者とし、GAPプロジェクトチームを編成しています。また、担当教員全員にJGAP指導員資格を取得させて、学生に対する指導の強化・充実を図っています。

学生は、国際水準の生産工程管理を習得するために、一年次にGAP講座で取得の意義と認証の必要事項等を座学で学びます。平成29年度は、稲作経営学科で国際水準であるASISGAPの認証取得を目指し、専攻実習の中に、「ASISGAP認証実践講座」を設け、講義・実習行ってきました。認証を受けるにあたり、稲作経営学科の学生達は、実習現場の施設(育苗舎ライスセンター、機械庫等)や圃場における、食品としての安全性、周辺環境の保全、作業の安全性の確保等の管理すべき点について、様々な改善を図ってきました。改善にあたっては、GAP専門コンサルタントの指導を受けました。コンサルタントの指導

の一部は、県内の農業系高校や農業者等にも公開し、GAPの意義や認証作業のプロセスを体感してもらったことができました。その結果、稲作経営学科では平成29年12月にASISGAP Ver.1(籾・玄米)を認証取得しました。さらに、今年度はASISGAP認証に基づいた生産工程管理を実践しながら、栽培管理技術の習得にあたっており、認証取得後の維持審査をパスしていきます。

GAP認証取得に向けた取組みの効果として①栽培・収穫・調製工程で、これまで気付かなかった管理点が明らかになり、食品安全対策がより向上した。②生産工程管理表の記載により栽培管理における課題と対応が明らかになった。③常に整理整頓するようになり、気持ち良く、効率的に実習ができるようになった。④危険個所の安全対策の掲示と対応マニュアルの整備により災害や事故防止に対する意識が向上した。⑤学生が自信を持つことができ、学習に対する積極性が見られるようになった。等があげられます。

今年度は、果樹経営学科の学生が西洋なしでASISGAP



Ver.2の認証取得(審査日は平成31年1月25日)を目指し、学習を行っております。来年度は野菜、再来年度は畜産でGAPの認証取得に向けた学習を計画していきます。

農林大学校の学生がGAPを学び、自ら実践することで、農業生産技術の習得に加えて、経営感覚を兼ね備えた人材として必要な資質・能力の育成に資することが期待されます。